



東筑摩塩尻校長会長 小林 順一

不易と流行



第136号
発行者
東筑摩塩尻教育会
編集者
会誌会報委員会

た。学級に行くと、「なんで先生来たの?」
教えた通りに学級に出向くようにし
た。学級に行くと、「なんで先生来たの?」
教員として勤務し始めたころ、ある先
輩の先生から注意されたことがあった。
学級担任をしていた私は、「〇年〇組〇
□君、職員室へ」と放送を使って生徒を
呼び出し、指示を与えたことがあった。
その時、先輩の先生は「自分の学級に用
があるなら直接学級に行つて伝えなさい。
リモートコントロールはダメ。」とおつ
しやつた。「え、どうして?」と思つたが、
教えた通りに学級に出向くようにし
た。学級に行くと、「なんで先生来たの?」
教員として勤務し始めたころ、ある先
輩の先生から注意されたことがあった。
学級担任をしていた私は、「〇年〇組〇
□君、職員室へ」と放送を使って生徒を
呼び出し、指示を与えたことがあった。

と話しかける生徒や怪訝な顔を向ける生
徒もいた。用事のなかつた生徒からも声
をかけられ、また、声をかけるようにな
った。先輩の先生の助言の通り、その場
に行くことで子どもたちと直接関わるこ
とができる。リモートコントロールでは
できないことだつた。

B君は、私も教師としての見方を教えて
くれた二人である。Aさんは、情感が豊
かで相手の気持ちがわかる女子だつた。
お父さんと弟と三人家族だつた。十二月
の三者懇談になり、Aさんの時間になつ
た。父親は何分か遅れて教室に入つてき
た。そして、「Aさんが自分の言うこと
を聞かない、進路も勝手にすればいい。」
と一方的に言つて帰つていつた。初めて
三者懇談をする私にはどうしたらよいか
わからぬ数分間だつた。父親が帰つた
後、Aさんは「先生、ごめんね。お父さ
ん、あんなんで。」と言つて涙を流した。

AさんやB君の言葉と一緒に二人の寂
しさや悲しみが私の心に迫つてきた。そ
れは、彼らの力ではどうにもならないこ
とだった。いつでも彼らはその悲しさや
寂しさを秘めながら学校で過ごしてい
たことに気づいていなかつた自分は、名
ばかりの担任に思えた。それまでの自分
の生徒のとらえの浅さや未熟さに気づか
された体験だつた。

新型コロナの影響もあって、ICTを
活用した教育が急速に学校へ入つてきた。
教員の仕事も様変わりしている。紙を配
り、記入して回収し、回答を集計して数
値とグラフで示し傾向を探るというアン
ケート調査は、ICTを用いることで、
数分でできるようになつた。集合に時間
がかかる会議にも、直前まで子どもと遊
びながら、移動時間なしで参加できるよ

B君は、中二の途中で養護施設に入り
転入してきた男子だ。B君は転入初日に、
話しかけてきた級友に反発し、配られた
プリントは丸めて投げ捨てるなどの行動
をとつた。その後、学級の仲間が粘り強
く関わつて、B君は次第に打ち解けてい
た。ある日、B君は生徒指導上の問題
を起こした。放課後、私はB君を指導す
るため二人きりで話をする場をもつた。
向かい合つて話をしていると、次第にB
君の反応がなくなつてきた。やがてB君
は下を向いて涙を流し始めた。私は反省
してくれたのかと一瞬思つた。そのとき、
彼の口から発せられた言葉を忘れるこ
とができない。「先生、うちへ帰りたいよ、
うちへ帰りたいよー。」B君は、小さな
子どものように泣きながら言つた。私は、
それ以上言葉をかけることができなくな
つた。

一方で、私にとつてのAさんやB君のよ
うに、同じ場にいて同じ時をもつた直接
体験の大切さを改めて認識している。だ
から、「不易と流行」を意識したいのだ。
変わつていくこと、変えていくこと(流
行)と変わらないこと、変えてはならな
いこと(不易)を意識して教育に当たる
必要がある。ICTを活用したほうが効
率的で効果的な場面を見出し、本当にそ
れが適切なのか検討し、使いこなしてい
く力をつけることは、これから学習に
おいて必要な教師の力である。流行の一
つである。不易なものは教師が子どもと
同じ場と時間を共有し、骨を惜しまない
こと。子どもの人格と教師の人格が直接
触れ合い、関わりあうことで教育ができ
ること。「教育は人格である」という手

塚縫藏先生の言葉は、GIGAスクール
の時代にあつても変わらないものである。
塩筑の教職員の仲間として塩筑の子ど
もたちと充実した笑顔あふれる時間をた
くさんもつるように、ともに歩み、研鑽
していく。そんな思いをもつた令和
三年度であった。

(塩尻中学校)

うになつた。長野県下の先陣を切つて広
陵中学校が、学校へ来られない生徒のた
めに、ICTを用いたリモート学習を出
席扱いにしていく方向性を研究し、不登
校問題対応に画期的な提案をしている。
一人一台の端末があることで学校教育は、
時間や手間を削減でき、さらに活用する
ことでこれまでできなかつたことができる
ようになるだろう。ICT活用には大き
きな可能性がある。

今我々はICT活用をはじめ、新たな
「リモート」の可能性を実感し始めている。
一方で、私にとつてのAさんやB君のよ
うに、同じ場にいて同じ時をもつた直接
体験の大切さを改めて認識している。だ
から、「不易と流行」を意識したいのだ。
変わつていくこと、変えていくこと(流
行)と変わらないこと、変えてはならな
いこと(不易)を意識して教育に当たる
必要がある。ICTを活用したほうが効
率的で効果的な場面を見出し、本当にそ
れが適切なのか検討し、使いこなしてい
く力をつけることは、これから学習に
おいて必要な教師の力である。流行の一
つである。不易なものは教師が子どもと
同じ場と時間を共有し、骨を惜しまない
こと。子どもの人格と教師の人格が直接
触れ合い、関わりあうことで教育ができ
ること。「教育は人格である」という手

特 集

塩尻市情報教育推進委員会

授業公開より

ICT 教育部会

研究の概要

塩尻東小学校

1 研究テーマの設定

① 全校研究テーマ

子どもたちが必要感をもつて取り組める主体的・対話的な活動のあり方を見える化と繋がる学びをめざして

② 研究の内容・研究テーマ

研究の柱とテーマ設定

◎ タブレット端末の学習活動への利活用

◎ ロイロノートの効果的活用

◎ 学習に苦手さを示す児童への支援

◎ 写真撮影・動画編集・ボイスメモ等の機能の効果的活用

◎ 教科の特性や学年段階・児童の実態に応じた利活用の目安の作成

◎ 昨年度作成の「使用のめやす」をさらに充実

○ 「この教科のこのような場面で使用するところのように児童の指導に活きた」というような提案

- 具体的な方向性として…
- ・ 日常的に授業で使える方法を考え、実際に使う
- ・ さまざまな活用方法の提案をし

2 ここまで の 主な 研究 成果

○ ICT の 使用 に 関する 指導 の 系統 化 [資 料]

『部会テーマ』
筋道を立てて考え、進んで表現し、学び合う子を育てる指導のあり方
— ICT 機器の効果的な活用を通して —

していく 普段の授業づくりに活ける方法を！
・ ICT 機器の活用を通して、思考力・表現力のある子どもたちを育てていきたい

(具体例)

【資料】R2年度の実践に基づく ICT機器の活用状況・今後の活用のめやす

塩尻東小学校

<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書（国語、算数、道徳、音楽） ロイロノート（音読を各自で録音。記録したものを作成して評価。質問を作って送る） 実物投影機（プリントやノートに記入するときの見本として投影。小さなものを拡大して見る。読み聞かせのとき、絵をうつす。など） デジタル教科書（国語・算数・外国語・道徳・保健） 実物投影機。問題や地図などをスクリーンに大きく映し、見せた。 ipadで子どもたちが撮影した小型ハードルの越え方を確認した。 デジタル教科書（国語・英語・算数・道徳・社会） <p>特に、算数と英語は毎回の授業で利用した。</p> <p>ipadの撮影機能を使って、子どもたちのノートやプリントをスクリーンで見せた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書（算数 数の大小をくらべる問題に、画面で答える） ロイロノート（音読を各自で録音。提出箱に提出。先生の質問に答えて、提出する。） 実物投影機（握った手の中に、数図ブロックがいくつ入っているか当てるゲーム・子どもがノートや作品を写して説明するなど）
<p>学習のねらい（本時の学習問題）</p> <p>（具体的な実践事例）</p> <p>に迫るための手立てとなつた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業で、自分たちで走る様子を撮影し、その後映像を見合い、走り方についてアドバイスし合った。 社会の学習で、インターネットを使って検索をし、必要な情報を集めた。 総合的な学習の時間で、子どもがipadを操作し「スクラッチ」を使ったプログラミング学習に取り組んだ。

- ・今まで絵を描くことに使つていていた時間／切つて貼ることにかかっていた時間／習熟に使つていた時間などを短縮し、その分話し合いやふりかえりの時間に使うことができた
- ・自分で見てわかりやすい／自分で聞くことができる／自分で操作できるなどわかりやすくつながった
- ・「一人ではわからないことも知つている先生から教めることができた」
- ・教材研究に使える時間が長い分、研究の中でできてよかつた

○環境の整備

- ・タッチペンの導入（必要ということが確認した上で購入予定）
- ・ipadで撮影をした写真や学習プリントの印刷が可能となる（デジタルとアナログの接続）
- ・ZOOMの導入（遠隔授業への対応・個別的な対応も含めて）

3

- 「今まで絵を描くことに使つていていた時間／切つて貼ることにかかっていた時間／習熟に使つていた時間などを短縮し、その分話し合いやふりかえりの時間に使うことができた」
 - 「自分で見てわかりやすい／自分で聞くことができる／自分で操作できるなどわかりやすくつながった」
 - 「一人ではわからないことも知つている先生から広めることができた」
 - 「教材研究に使える時間がなに分、研究の中でてきてよか

あるかと学習
「学びラボS

鹽尻西部中學校

故郷を素材にして探究的な学びを深め、自分の暮らす地域の長所を感じし、ふるさとのよさを知り自己肯定感を高め、次世代を担う人材の育成に資する。

2 総合的な学習の目標（新学習指導要領）

- ・タッチペンの導入（必要ということが確認した上で購入予定）
 - ・ipadで撮影をした写真や学習プリントの印刷が可能となる（デジタルとアナログの接続）
 - ・ZOOMの導入（遠隔授業への対応、個別的な対応も含めて）

今後の課題

- ・研究は途上であり、今年度の取り組みを通した成果が、今後学力調査等に現れてくるかどうか見極めたい。
- ・デジタルとアナログの両面を融合した活動を行うことで、児童の思考力を育む
- ・表現力・判断力をより醸成できるようにしていきたい。
- ・昨今、新しい教育方法や技術が導入されてきているが、教材研究の時間が十分に確保できていない現状があり、校内研究を通して改善していきたい。現在は、校内研究グループにおいて共同で教材研究・教材開発をしているが、今後は、各自で十分な

(3)

探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようとする。実社会や実生活の中から問い合わせる。ただし、自分で課題を立て、情報を集め整理・分析して、まとめ・表現することができるようとする。

5 単元総括演習の生徒の姿(単元の一)

塩尻市の特徴やまちづくりに携わる人々の思いに気づき、地域のよさや題顕自分たちとのかかわりについて考えるとともに、地域のためにできることを考え行動しようとする生徒。

学校目標	具体的な内容	具体的な活動
観(学び) 合う)	探究的な学び、 豊かな表現力、 学力向上	ICT機器の活 用
鍊(磨き) 合う)	塩尻のよさを	
恕(触れ) 合う)	追究	
の向上	広がる地域連 携、人間関係	各学年の活動
生きる力を育 成するコミュ ニティスクー ル活動	地域に学び地 域とつながる 活動	

3 學校田標一觀・鍊・怒

ながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

7

7 本單元で働くかせる見方・考え方

1) 8

① の設定（一時間）

場所全般リモート接続
パネルディスカッション形式で全
文記入

② 内容

塩尻市の魅力を考える場面で、各学年のパネリストの発言や全校のアンケート結果を通して、塩尻市のかさをもっと知りたいと思い、「塩尻市を活性化させよう」を全校共通課題として設定する。

テレビ放送による一斉リモート授

業で、塩尻市の今までの人口の推移と、将来推移の資料から、西部中学校の生徒数がどんどん減ってきていることに気づかせ、塩尻市を活性化させるためにどうしたらよいか全校で考えた。この時、今現在自分が塩尻西部中学校と塩尻市についてどのくらい知っているのかGoogleフォーム

6 単元を通して学ぶ問題（単元の中心的な問題）

(2) 各学年の事前の学び【情報の収集】
 ① 一年・洗馬地区の農産業を学ぼう
 ② 二年・街道探検(宿場町)
 ③ 三年・塩尻市活性化プロジェクト(SDGs の視点を取り入れる)
 ④ オープン・いしづえ・塩尻市内の公共施設
 マイニングを行った。

(3) 校外学習【情報の収集】
 内容
 実際に市内各所に出向き、施設見学や体験学習を行った。タブレットPCを用いて、施設の方のお話を記録したり、写真を撮ったりして、Googleスライドの作成を行つた。
 学びの共有とまとめ【整理・分析】
 (一時間)

(4) 校配信
 内容
 ① 場所 全校リモート授業
 パネルディスカッション形式で全生は洗馬地区の農産業、二年生は街道探検、三年生は塩尻市活性化プロジェクト、オープン・いしづえは塩尻市の公共施設について、それぞれ情報収集を行い、塩尻にはいところ、自慢できるところ、魅力がいっぱいあるということを学んだ。各学年の学びを全校で共有する。その際、各クラスをミートでつなぎ、リモートテレビ放送+クラスにいる生徒の様子や発表を中継した。また、各学年が学んだことをクイズにして、Googleフォームにて出題。スライドを使った発表や、発表に対する情報収集を行つた。

(5) 発表準備【整理・分析】
 (三時間程度)
 (6) 学習発表会【まとめ・表現・発信】
 内容
 各学年代表生徒(パネルディスカッション形式で放送室から全校配信)エスター(各学年・ICTを活用したりモート発表を行う)
 (7) 本時の目標
 (1) 「あるさと学習」で学んだことをGoogleスライドにまとめ、塩尻市を活性化させるために自分できることを発表しあう。
 (2) 塩尻市を活性化させるために自分にできることを考え、実際に行動しようとする態度を養う。
 (3) 単元を貫く問い合わせのまとめ【まとめ表現】
 (一時間)
 (4) 発表内容
 (表1)
 塩尻市のよさや自慢できることを発信する。
 塩尻市を活性化させるために自分でできることを考え発信する。リモートテレビ放送にて全校一斉授業を行う。

発表を聞いた後、Googleフォーム

する感想をジャムボードを使って共有した。さらに、自分がどう行動していくべきよいか、活性化のためにできることをテキストマイニングして、全校の意見の集約を行つた。

十二月二日(木)に学習発表会(コミュニケーションフェスタ)を実施して、地域に発信することを伝え、スライドのまとめ方の工夫や、文字の大きさ、色、フォントを変えることで伝わりやすくなることを伝えた。

表1

単元の目標	塩尻市を活性化させよう
単元終了時の生徒の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)	塩尻市の特徴やまちづくりに携わる人々の思いに気づき、地域のよさや課題、自分たちとのかかわりについて考えるとともに、地域のためにできることを考え行動しようとする生徒の育成

(7) 振り返り【振り返り・考え方の更新】
 内容
 まとめたもの(成果)について、何ができるいて何ができるないかを把握し、その間のプロセスについて検証し、次に向かっての新たな課題を生み出す。
 他学年の発表を聞いての感想や塩尻市のよさをまとめ、自己の振り返りをする。
 一、二年は、来年度どんな課題を設定して学習したいかを考える。

各学年の学習活動

- 塩尻市を活性化するための課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・発信し、地域の活性化につながる企画を考え行動しよう。
- 1学年: 洗馬地区の農産業を学ぼう
 - 2学年: 街道探検
 - 3学年: 塩尻市活性化プロジェクト
 - 4 オープン・いしづえ: 塩尻市の公共施設

・三年は、中学校卒業後、地域にどんなことで貢献できるかを考える。
 ・学習を通して学んだことを「キヤリ・アッスポート」にまとめる。

